

2024/7/19 開催 いけんひろば
～令和6年版こども白書（やさしい版）をつくる上で大切だと思うこと～
いけんのまとめ オンライン回

【オンライン】A班（小学生3名）	2
【オンライン】B班（中学生2名、高校生1名）	6
【オンライン】C班（高校生2名）	13
参加者アンケートで貰った意見	16

※小学生が参加したA班の文章には、ふりがなをつけています。

【オンライン】A班（小学生3名）

1. 「やさしい版こども白書」のコンセプト

○「やさしい版こども白書」と聞いて、どういったものをイメージしますか？

- サンプルを見るまでは、小学校で習うような、くだけた表現が使われているイメージだった。
- 普通の白書は文字が多くて読めないが、「こども白書」はこども向けにやさしい表現で書かれているイメージだった。

○どういったときに政府の資料を読んでもよいと思いますか？

- テレビニュースで目にすることがあるくらいで、それ以外では見る機会がない。
- 読んでもよいと思ったことはない。

○小学生や中学生が「やさしい版こども白書」を手にとったら、どういった場面だと思いますか？

- ニュースなどのメディアで目にしたり、学校で配られたりすれば読むかもしれない。
- 色やイラストが明るい雰囲気ですぐと目に付くポスターなら読むかもしれない。
 - ポスターは作ったほうが良いと思う。
- YouTube やテレビなどみんなが見るもので取り上げたら良いと思う。
 - YouTube は自分の趣味に関する内容を扱っているチャンネルを視聴することが多く、そういうチャン

ネルに「やさしい版^{ぼん}こども白書^{はくしよ}」が取りあげられるイメージはない。解説^{かいせつ}動画^{どうが}チャンネルで取りあげるといいかもしれない。

- テレビ CM で「こども白書^{はくしよ}」のことをお知らせするといいいかもしれない。
- 「こども若者^{わかもの}★いけんぷらす」を習^{なら}いごとにするのはいいかもしれない。

2. 「やさしい版^{ぼん}こども白書^{はくしよ}」の工夫^{くふう}、しかけ

○「事前^{じぜん}アンケートの結果^{けっか}」を見て、付け加^つえたいことはありますか？

- もし、こども家庭^{かてい}庁^{ちやう}にマスコットキャラクターがいるなら、ポスターに描^かいたほうがいいいと思う。

3. 「やさしい版^{ぼん}こども白書^{はくしよ}」のサンプルを見た感想^{かんそう}

○読みやすいと思^{おも}いましたか？

- 自分^{じぶん}は読むことができたが、同級^{どうきゅうせい}生^{せい}が読^よんだら、特に 2 ページ目^めに難^{むずか}しい単語^{たんご}が出てくるので、難^{むずか}しいと感^{かん}じるかもしれない。
- ふりがなをつけたほうがいいい。
- ふりがなを専門^{せんもん}用語^{ようご}以外^{いがい}にもつけたほうがいいい。
- 専門^{せんもん}用語^{ようご}を載^のせるなら解説^{かいせつ}をつけたほうがいいい。
- 実際^{じっさい}は 50 ページくらいあるとのことだが、文量^{ぶんりやう}が多^{おお}いと思う。2～3 ページくらいなら読^よめると思う。
- 多く^{おお}ても 20 ページくらいでないと読^よめないと^{おも}う。

- 本は面白いからページが多くても読める。「こども白書」の場合は、ページが多いと読むのが難しいかもしれない。
- 本は自分が読みたいものだから読める。「こども白書」の場合は、関心がなければページが多いと読めない。

○難しい言葉はありましたか？

- 「研修」という言葉も教科書に載っていないので、難しいと思う。
- 「青年国際交流事業」、「アントレプレナーシップ教育」、「社会課題」などは意味が理解しづらい。

○書いてあることをどのくらい理解できましたか？（どのくらいイメージできましたか？）

- 白書は国会に提出することも考慮して書かれているので、なかなかイメージがわきづらい。

○改善できそうな箇所はありますか？

- もう少し画像があった方がいと思う。
- 大人向けの「こども白書」は画像が少なく、文字量が多くなっている。「やさしい版こども白書」は、画像が多くなる分、文字量を減らすために短い文字数で表現できる専門用語が使われているのだと思う。
内容を理解してもらえるように工夫した方が良い。
- 内容を4コマ漫画にしたら読んでもらえると思う。

○取組（施策）に関わる小ネタがあった方が良いと思いますか？

- 良いと思う。

4. もっと詳しく知りたいこと・日ごろの関心ごと

○白書の内容の中で、もっと詳しく知りたいと思ったり、興味を持ったこと（分かりやすく説明してほしいと思
ったこと）は何ですか？

- 第1部・第2章【特集①】の「こども大綱」について、どのような内容なのかが気になる。
- 特に関心のあるものはない。

○白書の内容に限らず、日ごろ詳しく知りたいと思ってることは何ですか？

- 自分が興味のある本やテレビ番組についての新しい情報がお知らせされたら気になる。
- バラエティ番組のロケコーナーなどの中で、コラムとして自分が知らないことが紹介されたら調べたくなる。

以上

【オンライン】B 班（中学生 2 名、高校生 1 名）

1. 「やさしい版子ども白書」のコンセプト

○「やさしい版子ども白書」と聞いて、どういったものをイメージしますか？

- ・ 小学生が一人で読んで理解できる「子ども白書」。
- ・ 分かりやすくやさしい言葉で書かれた文章。
- ・ やさしい日本語（海外の人などでも分かりやすい日本語）が使われているもの。

○子ども白書を知っていたか。また、テーマ説明を聞いたり読んだりして内容は分かりましたか？

- ・ 「子ども白書」のことは知らなかったが、テーマ説明を聞いて大体分かった。

○テーマ説明資料や概要版子ども白書は皆さんにとって分かるものでしたか？

- ・ 何となく分かった。
- ・ 見やすいが、グラフが多すぎて内容が一目で分からない。
- ・ グラフや図表は 1 ページに 1 つぐらいがちょうど良いと思う。
- ・ 同じ結果なのに帯グラフや円グラフなど色々なグラフで表現されていると分かりにくい。

○政府が作った資料を見たことがありますか？また、政府の資料は分かりやすいと思いますか？

【政府が作った資料を見た経験】

- ・ ある。裁判所についてレポートを作成する機会があり、最高裁判所の資料を使った。
- ・ ある。技術の授業で情報セキュリティに関する課題が出て、総務省の資料を使った。
- ・ ある。図表などを引用する時に使ったことがある。農林水産物の授業があり、信ぴょう性が高いため農林水産省の資料を使った。

【政府が作った資料の分かりやすさ】

- ・ 文章が羅列されていると分かりにくい。調査概要だけで 20 ページくらいあったりする。
- ・ まとめだけ載っていればいいが、それまでの経緯などが長い。
- ・ 文章だと分かりにくい。ポスターなどで図が入っているものだと少し分かりやすい。

○どういうときに政府の資料を読んでもよいと思いますか？

- ・ 自分が困っている時に手に入るかもしれない。例えば、いじめを受けている時など。
- ・ いじめを受けていたりすると「国が出している資料を調べてみたら良い情報があるんじゃないか」と思うかもしれない。
- ・ 子ども家庭庁に関係する大きなニュースが起きたら、「子ども白書」を読んでもよいかもしれない。

○小学生や中学生が「やさしい版子ども白書」を手にとるとしたら、どういった場面だと思いますか？

- 同級生は「子ども白書」のことを知らないと思う。
- 若者に多く知ってもらいたいのであれば、一番効果があるのは SNS だと思う。
- 学校からのお便りに載せれば、興味がある人は見るかもしれない。
- 調べ学習の時の引用元などとして「子ども白書」を知ることがあるのではないかな。図書室などに「子ども白書」が置いてあれば良いかもしれない。
 - 図書室にはたまに行く。自分のためになる本があるかを見に行く。
 - 自分の通っている中学校では一定数の人が図書室に行っている。
- 各クラスに 1 冊置いてあれば誰かしらは読むと思う。読書の時間などに読む人もいそうである。

2. 「やさしい版子ども白書」の工夫、しかけ

○ 1. で考えた場面で読んでもらうとき、「やさしい版子ども白書」の中身にどんな工夫やしかけがあると良いと思いますか？

- 用語解説などを入れても良いと思う。
- 簡単な目次がついていて良いのではないかな。一部分だけ読みたい人がいると思う。
- インデックスとして「小学生はここ」や「中学生はここ」と入っていると読みたいものがすぐに見つけられると思う。漢字が難しいと小学生は読みたくなるかもしれない。
- 紙よりもデジタル版が良い。デジタル版であれば読みたいページにすぐ飛ぶことができる。デジタル版で目次があれば便利だと思う。普段は何となく目次で探して、そこから読んでいる。
 - 普段資料はインターネットで探すことが多い、スクリーンショットを撮って使ったりする。
 - 紙だと探すのが大変だったり重かったりする。タブレットだと一台で済む。
 - 紙で資料を見ることは、なかなか無い。

○「事前アンケートの結果」を見て、付け加えたいことはありますか？

【レイアウト】

- 動画発信プラットフォームを使ったり、漫画・アニメなどで発信したりすると良いと思う。
- 読んでくれる人を増やすために 4 コマ漫画は効果的だと思う。学校の配布物の中に「こどもの権利条約」のプリントがあり、その 4 コマ漫画が読みやすく「良かったな」と思った。
 - 4 コマ漫画は結構読む人がある。手軽に読める。
- レイアウトに関しては、社会科の教科書がすごく読みやすいと思う。普段使っている教科書は文字の大きさが項目によって違ったり、インデックスがついていたり、アンダーラインがあったりする。
- ユニバーサルデザインだと良いと思う。インデックスも大事。また、音声でラジオのように聞けるものがあったりすると自然と耳に入ってきたりする。
 - 「UD デジタル教科書体」のようなユニバーサルデザインのフォントを使うと良いと思う。プレゼンやレポートでもこのフォントを使用する。
- 「イラストを色鮮やかにして欲しい」という意見があるが、色鮮やかすぎると読みにくいと思う。

- 総務省の統計資料がカラフルすぎて少し見づらかった。
- 修学旅行の事後学習でプレゼンをやった時に同じ経験をした。緑赤黄色青のように多くの色を使いすぎると読みづらくなると感じた。
- こども家庭庁の資料のような暖色系の色は見やすいが、蛍光色は見づらいと思う。また、政府の資料などで棒グラフがすごく細く、さらに斜線が引いてあって見づらいと感じた。

【内容】

- フリガナや会話形式のコラムなどが良いと思う。
- 小学生向け、中学生向け、高校生向けを分けて作るのも良いと思う。各年代で知っている漢字が違う。
 - 世代ごとに分けて作るのは良いアイデアだと思う。小学生が必要としている資料と中学生、高校生が必要とする資料は違う。高校生なら知っているような内容でも小学生は知らないことがある。高校生向けのほうが内容は難しいが、分量は少なくなるイメージ。小学生向けには丁寧な説明が必要だと思う。
 - 小学生は調べ学習の機会が多いため、内容が多くても良いと思う。
 - やさしい日本語を使って、そのうえにさらにフリガナをつけたりすると分かりやすい。小学生のほうが知らないこと、初めて知ることが多いため、内容を簡単にして興味を持ってもらえるように分量を少なく・面白くすると良いのではないか。4コマ漫画、会話形式などの内容だと小学生にとって面白いし分かりやすいのではないか。
- ヤングケアラーについての情報が中学生以上しか掲載されていない。小学生も関係する情報を載せてもらえると、より分かりやすいと思う。
- 「日本は幸福度が低い」というニュースを聞いた。もしかしたら見落としているだけかもしれないが、幸福度が低い理由などについてのアンケート結果が載っていると自由研究などで使えると思う。
 - 自由研究で悩む人は多いため、ニーズがあると思う。

【アクセス】

- 大事なところを最初にまとめ、そこから段々深掘していく感じのほうがいい。「以前こんなことを調べている人がいます」というような感じのボタンを入れて、そこから飛べるようにするなど。
 - 最初から長い文章を読むのは疲れる。
- 「PDFの統合版を掲載して欲しい」という意見に強く同意する。
 - 全体を把握する時には統合版があるほうが便利。
 - PDFが細かく分割されていると嫌。
 - 調べたいところだけ見たい時には、分割されているほうが便利なのもあるかもしれない。
 - PDFの内容について質問するとAIが答えてくれるサイトがあり、結構便利だった。
- 「こども白書」の存在について何らかの媒体で知った人が、その媒体に掲載されているQRコードから「こども白書」に一発で飛べるような仕組みがあると良いと思う。

【その他】

- ・ 事前アンケート②の「その他」の2 ポツ目（こども家庭庁によって改善された点を過去と現在で比べることで、分かりやすく示されていて欲しい）に共感する。毎年発行されるものであるため、最初に「ここがこう変わりました」と書いてあると親切だと思う。

3. 「やさしい版こども白書」のサンプルを見た感想

○読みやすいと思いましたか？

- ・ 読みやすいとは思いますが、もうちょっと工夫できると思う。上手く言語化はできないが…。
- ・ 「遊びや体験活動のすすめ、生活習慣づくり」のところに QR コードが入っているのが良い。
- ・ 「このほかに行っていること」や「青年国際交流事業」の枠の四隅が丸いのは良いと思う。
 - 親近感が湧くと思う。
- ・ 「青年国際交流事業」について、ポスターの写真があるのが良い。ポスターがあるのとないのでは全然違う。ポスターがあると分かりやすく、イメージが湧いてワクワクする。
- ・ 「いつの時期でも大切なこと」は良いと思った。語尾が「するよ」なのも良いと思う。
- ・ 「いつの時期でも大切なこと」のようにイラストがあると一目で分かるため良い。この部分は文字も適量。
- ・ こういった資料に使われるイラストには意図的に様々な人が入っている。「いつの時期でも大切なこと」に使われているイラストもグローバルな感じがして良いと思う。

○難しい言葉はありましたか？

- ・ 「バリアフリー」が分からない人がいるのではないかな。
- ・ 「アントレプレナーシップ教育」と言われても、それが何か分からないと思う。
- ・ 括弧書きで「起業家教育」と書いてあるが、それも分かりにくい。
- ・ 「『次世代グローバルリーダー』ってなんだ？」と思った。
- ・ 「ジェンダーギャップ」や「性的マイノリティ」も難しそうな気がする。定義も複雑そうな印象。
- ・ 「啓発」という言葉は難しい。知識がないと分からない言葉である。「※啓発とは…」というような注釈があったほうが良いと思う。
- ・ 「学校教育」ではなく、「学校」や「学校の暮らし」でも良いと思う。
- ・ 難しい言葉を使わずに説明して、難しい言葉自体は括弧の中に入れても良いと思う。

○書いてあることをどのくらい理解できましたか？（どのくらいイメージできましたか？）

- ・ 「児童館における遊びのプログラム開発」とだけ言われてもイメージが湧かない。もうちょっと具体例が欲しい。
- ・ 「こどもまんなかまちづくり」の「このほかに行っていること」が分かりにくい。単に「支援」と言われても何をしているのかが分からない。
- ・ 気になった人は自分で調べてみてね、というトーンで作っているのだと感じた。

- 重要性が低い情報は「調べてみてね」でも良いと思う。「詳しく知りたい人は調べてみてね」と書いておいても良い。書いていないと「具体的なことが分からない」と思われてしまう。
- 詳しいことを書かない方法には、良いところもあるし悪いこともある。興味がない人は流し読みができるし、細かく知りたい人は自分で調べることができる。
- 「青年国際交流事業」についても、目的や具体的内容が書かれていない。どうしてこのような活動が実施されたのかが読み取れない。
 - 小中学生は好奇心旺盛だと思うので、「なぜ」というところは大切にしたいと思う。

○改善できそうな箇所はありますか？

- 文字の量がちょっと多い。
 - 高校生くらいであれば読めると思う。しかし、小中学生にとっては多いと思う。
 - 小学生は1ページ目を読んで「こういう感じなんだ」と思って、そこで読むのをやめると思う。小学生はイラストやポスターが入っていたりすると読むと思う。
- 「～しました」という語尾は堅苦しいため、読みたくなるのではないかと。極端だが「～したよ」くらいでも良いかもしれない。
 - 中高生くらいだと「ですます調」のほうが読みやすそうだが、小学生は「ですます調」に馴染みがないため「～だよ」のほうが良いかもしれない。
- サンプルを見た感じだと中高生向けの印象がある。小学生向けにするならば、もっと根本的なこと、自分に身近なことが書いていると分かりやすくなるのではないかと。
- 「ジェンダーギャップの解消」のところで、「作成しました」と使われているのが気になる。最初のほうは「つくりました」だった。「つくりました」に統一したほうが良いと思う。
- 写真とかがあったら良いと思う。例えば「早寝早起き朝ごはん」のイメージ写真などが入っていれば内容が一目で分かる。
- 最後のイラストはいらない。「ジェンダーギャップ」などの難しい言葉を本文で使うくらいであれば、イラスト内の質問文を本文に入れたほうが良いのではないかと。
 - 考えている姿をイラストにする必要はないと思う。伝えたいこと＝問の答え（～と言われたことがあっても、そんなことで悩む必要はありません）というものを大きく出してはどうか。
- 啓発資料のQRコードを掲載すれば、知りたい人はもっと知ることができる。
- 見出しについている電球マークについて、もっと良いアイコンはないのか。

4. もっと詳しく知りたいこと・日ごろの関心ごと

○白書の内容の中で、もっと詳しく知りたいと思ったり、興味を持ったこと（分かりやすく説明してほしいと思ったこと）は何ですか？

- 「【注目事例⑧】学校外からのアプローチによるいじめ防止対策」に興味がある。
- 「【注目事例⑨】ヤングケアラー支援」に興味がある。

- 「【注目事例⑥】こどもの居場所づくりに関する指針」や「【注目事例⑦】1人1台端末等を活用したこどもの相談支援」、「【注目事例⑧】学校外からのアプローチによるいじめ防止対策」などは自分たちに関係があるので興味がある。一方で、「【注目事例⑤】はじめての100か月の育ちビジョン」は親世代向けだと感じ、対象世代が混在している印象がある。
 - 誰向けなのかが分けてあると分かりやすいと思う。小学生向け、中学生向け、高校生向け、大人向け…など。

○白書の内容に限らず、日ごろ詳しく知りたいと思ってることは何ですか？

【参加者自身が興味を持っていること】

- 中学3年生なので高校に興味がある。自分の人生・進路に関する情報があると嬉しいと思う。高校を中退した時に高校が何か手助けをしてくれるのか、通信制の高校に転校できるのか、レールから外れてしまった人たちを国は把握・支援しているのか。そういった内容が載っていれば、すぐくたになる。
- 高校の先生が中学校に来て高校の話をしてくれた時に「海外の学校に進学する人はいる？」と聞かれた。自分のクラスでは誰も手を挙げていなかったが、もしも高校で海外に行くことが一般的であれば、そのような選択肢があることを書いておけば見つけた人が「おっ」と思って、海外に進学するきっかけになったりと思う。
 - 日本は教育レベルが低いといわれることもあるため、未来を担う若者を育成するために海外に進出する支援をすることも重要だと思う。
- 自分が困っていることに興味があるのだと思う。不登校の人なら不登校の話題など。【注目事例⑧】にも関係するが、いじめやヤングケアラーについて国が知っているのかどうか被害者・当事者は興味があると思う。
- インターネットが普及しているからこそ発生している問題がある。そのため、そういったテーマの統計などを載せてほしい。
- 政府の資料の良い点として海外比較が入っている点が挙げられる。似たような政策が海外で行われていることも多いため、「アメリカではこうでした」など政策の比較があれば面白いと思う。
 - 比較は大事だと思う。日本に足りていないこと、日本がもっとやったほうが良いことなどが分かるため、より良い政策につながる。大事だと思う。
 - 例えば、アメリカと日本を比べて「日本はこれだけ治安が良いです」というようなことが書いてあれば、日本のアピールになると思う。
- 「こども白書」の内容に成功したことだけを書いているのか失敗したことも書いているのか分からないが、こういう資料には成功したことばかりが書かれている印象がある。失敗したことや今後の改善点なども書いてあると良いと思う。

【学校の同級生が興味を持ちそうなこと】

- 「こども白書」について周知されても、読まない人が多いのではないかなと思う。
- 自分自身がヤングケアラーの場合など「こども白書」で扱っている内容に直接関係がある人だったら「こども

白書」に書かれている内容を知りたいと感じると思う。「こども白書」の内容に直接的に関係がない人は興味を持たないのではないか。

- 政治で無党派層が重要だといわれるのと同じように、何も考えていない人をどうやって取り込むのが重要だと感じる。例えば、学校でサンプルを配布して「面白かったら読んでください」と宣伝するのも効果的ではないか。化粧品のサンプルと同じ。
- 政策が自分たちの生活につながっているという実感がないと読まないのではないか。そもそも政治があまり身近ではない。

以上

【オンライン】C 班（高校生 2 名）

1. 「やさしい版子ども白書」のコンセプト

○「やさしい版子ども白書」と聞いて、どういったものをイメージしますか？

- いけんひろば参加前は「子ども白書」について知らなかった。今回資料を読んで「子どもに関する政策を書いたものなんだな」と知った。「子ども白書」として想像するのは、政策がずらーっと並んでいるもの。
- こども家庭庁のホームページを見ることがあり、その時に「子ども白書」を読んだ。イラストが少ないイメージだったけど、すごく簡略化されていて読みやすいと思った。
- 「子ども白書」の概要版も見てみた。政策だけを載せていると思っていたので、資料の分析も書いてあって興味があった。

○「子ども白書」を知っていましたか？また、テーマ説明を聞いたり読んだりして内容は分かりましたか？

- 学校の「探求」という授業で他の社会的な問題について調べている時に、こども家庭庁ができたことを知り、こども家庭庁ホームページに飛んだ気がする。ホームページで「子ども白書」を読んだ。
 - 私も学校で「探求」の時間があつたが、その時はこども家庭庁のサイトを知らず、文部科学省のサイトを見ていた。その時に「子ども白書」について知っていれば良かったなと思った。

○政府が作った資料を見たことがありますか？また、政府の資料は分かりやすいと思いますか？

- 「探求」の授業は、調べ学習をして自分の考えを深めるという流れ。調べる段階で、国が出している資料の方が正確性が高いので、政府の資料を見るようにしていた。どのような資料を参照するべきかについて、先生からはあまり助言を受けることがなかった。
 - 私も「探求」の授業の際に政府が出している資料の方が確かな情報だと思った記憶がある。

○小学生や中学生が「やさしい版子ども白書」を手にとるとしたら、どういった場面だと思いますか？

- 自分が中学生の頃はなかったが、今の中学生は総合学習の中で自分の関心があるテーマについて調べて考えるという発展的なことをしていると聞いた。高校生がする「探求学習」のような活動もしているかもしれない。
- 今の小中学生にはタブレットが配られているので、「やさしい版子ども白書」にも辿り着きやすいと思う。
- 「やさしい版子ども白書」サンプルを見て、何か活動したいと思っている人は、「子ども白書」を読むことで行動を起こすきっかけが生まれそうだと思う。ただ、行動するための材料として最初に「子ども白書」を思いつくかと言われると、そうではない。

2. 「やさしい版子ども白書」の工夫、しかけ

○1. で考えた場面で読んでもらうとき、「やさしい版子ども白書」の中身にどんな工夫やしかけがあると良いと思いますか？

- 不登校者の数など、統計的なデータは他のサイトでも見つけやすいが、実際に保護者やこどもの思いを調査したアンケート結果などはなかなか見つけられないので、欲しい。探求の授業でも、理想論で終わってしまう。現実と照らし合わせて探求をしたい。
- 私は高校 2 年生の時、小中高生の自殺の多さについて探求していた。厚生労働省や警視庁が数値データを公表しているが、一部の項目については自分で割合計算などをしなければならなかった。こども家庭庁が小中高生について細分化したデータを出してくれたら良いなと思った。
- どうやって調べたら自分が求める資料・データにたどり着けるのかを見つけることが難しい。資料を検索しやすくしてくれていたら良いと思う。

○「事前アンケートの結果」を見て、付け加えたいことはありますか？

【内容】

- 年代ごとに内容を作ることが必要だと感じた。「こども白書」のページ内を検索できるようにしたり、小中学生を取り巻く現状についての詳しい情報が載ったページにすぐに飛べるような仕組みをつくらせると良さそう。3 年ごとくらいに年代を分けて内容を考えてほしい。「小学校低学年」「小学校高学年」「中学生」などのくくりをイメージしている。
 - 年代ごとに内容を分けるのはいいと思う。ただ、「簡単だったらいい」ではない気がする。簡単すぎても、小学校高学年や中学生からすると嫌だと思う。言葉遣いも学年ごとに分けられるとよい。小学校 3 年生からは社会科の授業があり、社会への関心が増え、話題も増えると思うので小学生を「低学年」「中学年」「高学年」で分けるのがよさそう。
- 授業で扱うのであればページ数を絞った方がいいけれど、ページ内検索ができるのであれば、ページ数が多くても問題ないと思う。

【アクセス】

- 「こども」というキーワードでインターネット検索をした時に「こども白書」が一番上に出てくるようにすれば、こども関連を調べている人は見ると思う。
- こども家庭庁ホームページの中にいくつかページがあると思う。その一番上に「こども白書」を掲載しておけば、一目で分かる。
- 「こども白書」に何が載っているかを知っている人があまりいないと思う。先生が内容について知っていたら、生徒も知るきっかけが生まれそう。
- 例えば厚生労働省のグラフを見たときに「こども白書でも、このデータを取り上げて分析しているよ」などと近くに書いてあれば参照して活用できる。色々な省庁がお互いに協力できるとよい。
- PDF だとクリックをただけでダウンロードが始まってしまうから、パソコンが重くなると思う人もいるかもしれない。けれど、PDF は引用元のリンクとしては示しやすい。

3. 「やさしい版こども白書」のサンプルを見た感想

○読みやすいと思いましたか？

- 読みやすいと思う。何が書いてあるかもすぐに分かるし、余白があるし、イラストもあるし、漢字にはふりがながふってある。誰にでも読めるようになっている。
- イラストが結構あって、ふりがなも書いてあり、文章を短くしているので、こどもにとって読みやすい。ただ、レイアウト的には低学年・中学年向きに見える。小学校高学年や中学生が読むなら、もう少し具体性がほしい。自分が関心を持った時に行動を移せるような内容にしてほしい。関心があるときが一番行動に移しやすい。例えば「運動の良い例」の「例」をチェックリストにして読者が使えるようにすることなどが考えられる。
- とても知りたい内容であれば自分でも更に調べるけど、ちょっと気になるくらいだと「へー」で終わってしまう。なので、もっと詳しい内容をこども白書にも載せておいたほうが良いのではないかな。

○難しい言葉はありましたか？

- 表現だけでなく、内容も年代ごとに分けるのがよいのではないかな。
- 言葉と内容のどちらも、年代別に分けられるとよさそう。

○書いてあることをどのくらい理解できましたか？（どのくらいイメージできましたか？）

- 「かわまちづくり」は地域貢献的に関連するので、高学年が興味を持ちやすいと思う。

○改善できそうな箇所はありますか？

- 中学生の頃、授業で調べものをする時は、具体例や数値的なデータを調べて根拠を探していた。イラストも良いが、分かりやすい数値などを載せてくれたら嬉しい。
- 小学校低学年にとっては文字数が多い気がする。中学年～高学年になると、必要最低限の写真で良いと思う。キャラクターなどを作って、そのキャラクターが吹き出しで情報を話しているようにするなどの工夫ができるかもしれない。
- 改善した方がよいところはない。全ページでやるのは難しいかもしれないけれど、一部にだけでも文字を読み上げる機能があれば、誰にでも読める資料になると思った。
- 「こども白書」を使って学校でワークショップ的なものができたら良いなと思う。例えば「自分の身の回りの児童館を調べてみよう！」とか。
 - 参加型ワークショップをこども家庭庁がつくってくれたら、教育機関でも「こども白書」を使いやすいと思う。「こども白書」を知って、その先こどもたちがどう行動するのかというところまでを見据えてほしい。知るだけで終わってしまうのがもったいない。

4. もっと詳しく知りたいこと・日ごろの関心ごと

○白書の中で、もっと詳しく知りたいと思ったり、興味を持ったこと（分かりやすく説明してほしいと思

ったこと)は何ですか？

- 「【注目事例⑦】1人1台端末等を活用したこどもの相談支援」に関心がある。こども家庭庁が出している「こどもの自殺対策緊急強化プラン」にも同じことが書いてあったが、端末を活用した相談支援の有効性が分からなかった。私もタブレットを配られたが、休み時間や授業の限られた時間以外は使えない。端末等を使った早期発見は、完全には機能していないのではないかな。

○白書の内容に限らず、日ごろ詳しく知りたいと思ってることは何ですか？

- 乳幼児に関心がある。今は核家族化が進み、共働きも多く、親子の時間が少ないと思う。今までは少なくなった親子の時間を増やさなきゃと思っていたが、今は少ない時間の質をどう高められるかに関心がある。また、こどもの居場所としてよく相談所などが挙げられるが、私は家庭や家族がこどもの居場所になると良いなと思っており、そのためにどうすれば良いかを考えている。
- 探求テーマは「こどもの幸せ」。親子について探求していた。親が考える幸せとこどもが考える幸せは一緒なのかについてアンケートを取ると、一緒という結果だった。それでも、親子関係で課題が見つかったりしたので、課題の原因は別にあるのだと思う。理想と現実のギャップを感じ、理想を現実にするにはどうすれば良いのだろうと考えていた。

参加者アンケートで貰った意見

○いけんひろば当日に言い足りなかったこと

- 病気療養、家庭の事情、留学、転校の為とかではなく、友人関係や行く気がなくなって高校を辞めてしまった子どもの人数を載せて欲しい。受験を乗り越えた後に待っている高校生活はだれもが楽しいものであって欲しいから。

以上